



基調講演
世界遺産で元気なまちづくり

講師 公益財団法人ながさき地域政策研究所
協田 安大 理事長



世界遺産は、「人類共通資産としての価値を持つ自然や文化遺産を認定し、保護し、将来の世代へ伝える」ことを目指すものです。しかし一方、世界遺産ブームによって観光振興を目的にした登録運動が増加。登録後は観光客や観光施設の増加などにより、自然や生活環境、地域コミュニティ悪化など、世界遺産が地域を破壊する事例も増加しています。

長崎の教会群への期待と問題点としては、市民として「地域の記憶」を知ることが必要です。また、島原の乱で密接な関わりがある天草地域との相互理解、交流を深める必要があります。乱の時には海上交通が重要な役割を担っていましたが、この海上から乱の史跡を巡り、体験しながら味わうコースを検討する価値があります。しかし、大切なのは、市民皆さんの交流や、ストーリー作りでの協力が必要です。



日野江城跡



原城跡

伝えられた記録から見た南島原の繁栄と弾圧を3人のパネリストにより検証しました。パネリストからは、日本キリスト教の繁栄には、日本で初のイエズス会中等教育機関「有馬のセミナリヨ」の存在は欠かせない。天正遣欧少年使節を輩出し、多くの日本人司祭を生み出したセミナリヨの教えこそが、幕府の弾圧下での潜伏と復活の原点となった。長崎の教会群を支える精神は、南島原で育成されたものであったことを強調されました。また、ローマに残る報告書から400年前の日野江城・原城、南島原市内を移動したセミナリヨ・コレジヨの役割を紹介されました。その他、日野江城跡・原城跡の活

用など、過去の検証から未来に向けた史跡の活用方法、他地域との連携などの提案もありました。

世界遺産と向き合うのは
私たち市民

基調講演での世界遺産がもたらす経済効果に加え、今後に向けては世界遺産と暮らしていく私たちがいかに遺産に向き合い、大切にしていけるのか。世界遺産登録はその第一歩であるとして、コーディネーターがまとめました。最後には、今後の早期登録を目指すアピール文も提案・採択され、シンポジウムを閉じました。

世界遺産の意味合いを
市民に啓発

世界遺産登録を目指している「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」は、「信徒発見」から150周年にあたる平成27年の登録を

目指し、準備作業を進めています。特に今年度は日本国内で推薦されるか否かの重要な時期を迎えています。今回、ヨーロッパから伝わったキリスト教文化が、日本土壌の中でどのように黄金期を迎え、迫害

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録を目指す南島原市世界遺産登録推進シンポジウムを5月19日(日)ありえコレジヨホールで開催しました。シンポジウムには市内外から約600人が参加。キリストン文化の繁栄と島原の乱での滅亡をたどった郷土の歴史的意義を確認しました。

パネリストが見た
南島原の魅力

日本が戦国時代の頃、キリストン大名有馬晴信によりヨーロッパの文化・教育を積極的に受け入れて繁栄した地が有馬、現在の島原半島でした。今回はヨーロッパに

に至ったのかを明らかにするとともに、本市の世界遺産候補の価値や魅力の情報発信を図るため、シンポジウムを開催しました。本市には日野江城跡、原城跡の2つの構成資産を有し、キリスト教の繁栄から弾圧の時代を担っています。

南島原から
世界遺産を

南島原市世界遺産登録推進シンポジウム



シンポジウムに併せて日野江城、原城さるくを実施。長崎市内から41人が参加。



ゆるキャラの「アリマーノはるのぶっち」と「ベイガ船長」が来場者をお出迎え。



シンポジウムには島原の乱で共に行動した熊本県天草市からも36人が参加。



朗読劇で昨年のローマ派遣を報告した平成遣欧少年使節の皆さん。国際交流員らも応援。



コーディネーターは、九州国立博物館長の三輪嘉六氏。



約600人の聴講者の皆さんが来場。



ぼうしをかぶる。

テーマ「私の暑さ対策」

南島原市立 吉川 小学校 6年 名前 柴原 穂波

暑くなったら水分補給をしっかりとる。

テーマ「私の暑さ対策」

南島原市立 吉川 小学校 6年 名前 宮野 葵

